

一

次の各問いに答えなさい。

問一

次の――線部の漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 正しい方向に導く。
- ② 無理な要求を退ける。
- ③ 釈然としない話だ。
- ④ 返答を留保してもらう。
- ⑤ 言語道断なふるまいだ。
- ⑥ 仏前に花をソナえる。
- ⑦ 兄は銀行にツトめている。
- ⑧ グラフをサンショウしながら説明を聞く。
- ⑨ キョウドアイを育てる教育を行う。
- ⑩ シュウギイン選挙が行われる。

問二

次の漢字について、①部首名をひらがなで書きなさい。また、②総画数が同じ漢字をあとのア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

窓

ア 純 イ 張 ウ 属 エ 解

問三 次のア～オの四字熟語の組み合わせの中で、上と下の□に同じ漢字が入るものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一□一タ□三暮四 イ □心伝心□気消沈
ウ 自□自賛□無□夢中 エ 千客□来□千差□別
オ 臨□応変□大□晚成

問四 次の熟語と組み立てが同じ熟語を、あとのア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 行政 ② 激流
ア 正誤 イ 過失 ウ 半熟 エ 未納 オ 頭痛 カ 閉店

問五 次の文の——線部が修飾している文節を、——線部ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ・おそらく、このア答えてイ正解だとウ考えているのだろうとエ判断した。

問六 次のア～エの中から、敬語の使い方が正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 先生の家のだにこのエサをさし上げてください。
イ どうか一度、私の家にうかがってください。
ウ がんばって勉強するようにと先生が申しました。
エ 父が先生の絵を拝見して、たいそう感心していました。

問七 次の文の「られる」と同じ意味・用法で「られる」が用いられている文を、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ・浴衣を一人で着られるように練習する。
ア この貝は生でも食べられる。 イ おじさんが遊びに来られる。
ウ 他人から白い目で見られる。 エ 病気の母のことが案じられる。

二 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。問いの中で字数に指定のあるときは、特に指示がないかぎり、句読点や符号もその字数に含めます。

① ルールを大切に考えるという発想は、規則を増やしたり、自由の幅を少なくする方向にどうしても考えられてしまうのですが、私が言いたいことはそういうことではありません。むしろ全く逆なのです。

ルールというものは、できるだけ多くの人にできるだけ多くの自由を保障するために必要なものなのです。

なるべく多くの人が、最大限の自由を得られる目的で設定されるのがルールです。ルールというのは、「これさえ守ればあとは自由」というように、「自由」とワンセットになっているのです。

逆にいえば、②自由はルールがないところでは成立しません。

「何でも好き勝手にやっていい」ということが自由だとしたら、無茶苦茶なことになってしまいます。人間というものは総じて自分の利益を最優先する傾向があるわけですが、「自分の利益のことしか考えない力の強い人」が一人いたら、複数の人間からなる社会における自由はもうアウトになります。この場合、誰か一人だけが自由で、残りの人はみんな不自由ということになりかねません。ルールの共有性があるからこそ、自由というものが成り立つのです。

人間が生きているということの本質は自由であり、欲望の実現です。ルールとは、それぞれの人びとが欲望を実現するために最低必要な*ツールなのです。

欲望は、百パーセントは実現できないかもしれない。しかしたとえば一割、二割、自分の自由を我慢して、対等な立場からルールを守ることですか、社会のメンバー全員自由を実現することはできないのです。そうすることによって、③残りほとんどの欲望は保障されます。でもルールというものの本質がそういうものだということは、なかなか了解されにくいのです。たとえば交通規則を思い出してください。どんなに急いでいても前の信号が赤ならば必ず止まる。一見すると「早く目的地に着きたい」という欲望は制限されていますが、そうした欲望を多少抑制することによって、誰もが安全に確実に、事故に遭うよりはずっと早く目的地にたどりつくことができるのです。

そして「秩序性」というものは、最低限のルールをお互いが守ることの中から、結果として出てくるものです。秩序正しさそのもの

のを目的にすると、人びとはより多くの自由を我慢しなければならなくなり、息苦しさが増してしまいます。

社会のルールで何が一番大事かということは、いろいろな社会によって微妙に違ってくるかもしれませんが。

にでも大体共通して大事に考えられているルールがあります。それは、「盗むな、殺すな」という原則です。【ア】

これは、社会のメンバーそれぞれの生命と財産をお互いに尊重するというルールになっているわけです。

ということかという、自分の気分だけで勝手に人を殺していいということになると、今度は自分がいつ殺されるかわからないということにもなりうるわけです。ですから、「殺すな」は結局自分が安全に生き延びるという生命の自己保存のためのルールと考えられるわけで、別に世のためのルールと考える必要はないのです。【イ】

「盗むな」もそうです。盗んでもいいという社会では、自分の持物・財産がいつ盗まれるかわからない。「殺すな」が守られない場合と同様、とても不安定な状況になってしまう。

Ⅱ、「盗むな、殺すな」という社会のメンバーが最低限守るべきであると考えられているルールは、「よほどのことがない限り、むやみに危害を加えたりせず、私的な*テリトリーや財産は尊重しあいましょう、お互いのためにね」という契約なのです。

④ こうした観点から「いじめ」の問題をあらためて考え直してみると、誰かをいじめるということは、今度は自分がいつやられるかわからないという、リスク（＝危険）な状況を、自分自身で作っていることになります。

いじめめるか、いじめられるかを分けているのは、単にその時々の方力関係によるもので、いつ逆転するかわかりません。

無意味に人を精神的、身体的にダメージを与えないようにするということは、自分の身を守る、自分自身が安心して生活できるとに直結しているのです。

単に「いじめはよくない、卑怯なことなんだよ」「みんな仲良く」という規範意識だけではないいじめはなくなりません。そうではなくて、「自分の身の安全を守るために、他者の身の安全を守る」という、⑤ 実利主義的な考え方も、ある程度学校にも導入したほうがよいのではないかと思います。【ウ】

人類の歴史を見ても、「⑥ 自然状態」ではどうしても人間は物理的に力のあるほうが「殺し、盗む」ものであり、そうした状態が長く続くと世の中が安定せず総崩れになるからどうしたらいいかを、賢人たちが長年考えてきたわけです。そして出した結論が、「人を殺さない、人から盗まない」というルールは、「人に殺されない、人から盗まれない」ことを保障するために必要なものだ、

という答えだったわけです。【エ】

そもそも、クラス全員が仲良くできる、全員が気の合う仲間どうしであるということとは、現実的に不可能に近いことです。人間ですから、どうしてもお互い馬が合わない人、理屈ぬきに気に障る人というのはいます。大人だって、ほとんどの人は何かしら人間関係の悩みを持っています。

そんなとき、ムカツクからといって攻撃すれば、ますますストレス過剰な環境を作り、自分のリスクも大きくすることになります。

だからこそ「並存性」という考え方が大事なのです。ちょっとムカツクなと思ったら、お互いの存在を見ないようにするとか、同じ空間にいてもなるべくお互い距離を置くということしかないと思います。

ただし、露骨に「シカト」の態度を誇示するのも、攻撃と同じ意味を帯びてしまうことになります。朝、廊下や教室で会って目があつたりしたら、最低限の「あいさつ」だけは欠かさないようにしましょう。あくまでも自然に「敬遠」するということもやりてください。

要は、「親しさか、敵対か」の二者択一ではなく、態度保留という真ん中の道を選ぶということです。

Ⅲ サバンの泉のほとりに、たくさん種類の動物が、おたがい無関心な様子で同じ空間を平和に共有している姿を、テレビなどで見たことがあるでしょう。フラミンゴやシマウマが、「われ関せず」という感じで一緒に水を飲んでいたりします。あんな光景を思い浮かべると「並存性」がイメージしやすいかと思えます。

（菅野 仁『友だち幻想 人と人の（つながり）を考える』による。一部文章を改めました。）

*ツールⅡ道具。

*テリトリーⅡその人の受け持ちである領域。なわばり。

問一 ⅠⅢにあてはまる接続語として、適切なものを次のア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ でも ウ そのうえ
エ あるいは オ たとえば カ ところで

問二 次の一文は本文中の【ア】～【エ】のうち、どこに入るのが適切ですか。一つ選び、記号で答えなさい。

残念ながら、「殺し、盗むことは人としてよくないことだから」という答えではないのです。

問三 — 線部①「ルール」とありますが、筆者は「ルール」とはどのようなものであると述べていますか。本文中から二十七字で探し、はじめと終わりの五字ずつをぬき出して書きなさい。

問四 — 線部②「自由はルールがないところでは成立しません」とありますが、なぜそういえるのですか。その理由を説明した次の文の [1]・[2] にあてはまる言葉を、本文中からそれぞれ五字以内でぬき出して書きなさい。

●人間というものは、とかく [1] を最優先してしまうために、ルールがないと好き勝手なことばかりして [2] な状況になるから。

問五 — 線部③「残りほとんどの欲望」とありますが、「交通規則」で赤信号を守るという場合、具体的にはどんなことが「残りほとんどの欲望」になるのですか。本文中からぬき出して書きなさい。

問六 — 線部④「こうした観点」とはどのような観点のことですか。その説明として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「秩序性」は、ルールをお互いが守ることの中から、結果として出てくるといふ観点。

イ 秩序正しさそのものを目的にしたルールは、息苦しさが増すものであるという観点。

ウ ルールというものはそれぞれの社会によって微妙に違ってくるものだといふ観点。

エ 「盗むな、殺すな」といふルールは、生命の自己保存のためのルールであるという観点。

問七 — 線部⑤「実利主義的な考え方」と対比されているものは何ですか。本文中から四字でぬき出して書きなさい。

問八 — 線部⑥「自然状態」とは、ここではどのような状態のことですか。二十五字以内で説明しなさい。

問九 次の各文のうち、本文で説明されていることに合っているものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア ルールを大切に考えるという発想は、自由の幅を少なくする方向にどうしても向かってしまうものであるから、ルールの設定は最低限にとどめる必要がある。

イ 人間が生きるといふことの本質は自由であり、欲望の実現である以上、最低限のルールがなければ社会そのものが安定せず総崩れになる危険性もある。

ウ どんな社会であっても「盗むな、殺すな」といふルールが最低限の原則として成り立つが、このルールを支えているのは、人々の中に共有されている道徳や社会性である。

エ すべての人と良好な関係を持つといふことは不可能である以上、人と人との関係の中で態度保留という立場をとり、お互いに距離を置いて敬遠しあうことも必要である。

オ いじめの問題というのは人間関係が「親しさか、敵対か」という二者択一しかない場合に起こるのであり、それを解決するためにはお互いに無関心でいて相手を完全に無視する態度をとることも必要である。

三 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。問いの中で字数に指定のあるときは、特に指示がないかぎり、句読点や符号もその字数に含めます。

「今日でおれたち三年生はサッカー部の第一線から退く。でも引退はまだ先だ。ときどき、ボールを蹴りたくなってグラウンドに来る日もあると思う。公式戦にはもう出られないけれど、そのときは一緒にやらせてくれ。来年の春、受験が終わったら、おまえらとの引退試合ができればと思っている。」① 一年生だけで大変だと思うが、チャンスと思ってがんばれ。キャプテンについては、話し合った結果、三年生としては武井遼介を推薦する。あとは、おまえらで決めろ」

兵藤は県下でもサッカーの強豪として有名な高校の特色科を受験するらしかった。吉井は学校の成績は優秀で、県下でもトップクラスの進学校を目指すという噂だった。

新キャプテンは一年生の中で多数決を採り、武井遼介に決まった。三年生たちが遼介を推したことが大きかったのかもしれない。チームにはリーダーシップのある長塚ジュニアーズでキャプテンをしていた土屋がいたが、遼介には自分がキャプテンになるだろうという予感があった。自分はこの三年間で次のステップを切りたい。それにはチームで強くなるしかない。その責任を背負いたいと遼介は思った。三年生と一緒に試合をする中で、*フィジカル的に敵わないという部分はあったが、少なからず手ごたえを感じていた。遼介は一年生ながら*再びキャプテンマークを左腕に巻くことになった。

放課後の練習前に、遼介は②顧問の湯浅に職員室に呼ばれた。

「知っていると思うが、私にはサッカー選手としての経験もないし、監督としての経験もない。前監督が異動になったあと、そういう意味でのサッカー経験者はわが校にはおらず、サッカー部顧問のなり手がいなかった。そうした事情で、私が顧問の一人として受ける形になった。もうひとりの顧問の山下先生は、三年生の進路指導を受け持っていた。しかも女性だった。それでキャプテンの兵藤の担任だった私が、実質的な顧問という立場になったわけだ」

湯浅は黒ぶちのメガネを傾け、遼介の顔を覗いた。めずらしく白衣姿ではなく背広を着ていた。

「知ってたか？」

「知りませんでした」

遼介は半分嘘をついた。先輩から少しは話を聞いていた。

「そうか」

湯浅は隣の席のキャスター付きの椅子を転がし、遼介に座るようにすすめた。

「③正直言って困ったよ。仕方なく審判の四級の資格を講習会にいつて取ったものの、サッカーに対する知識はないし、それ以前に興味がないのだから。部員もやめていくしね」

湯浅は背中を丸めて膝に肘を置いた。

「でもチームには兵藤がいた。あいつはいかんなく④を發揮してくれた。はっきりと私に物を言い、私を助けてくれた。グラウンドで話しているときに、『先生はなにかスポーツをやっていないかったですか？』と聞かれたので、私が中学まで卓球をやっていたと言うと、あいつは笑って『それなら大丈夫です。同じ球技ですから』と言ってくれたんだ」

湯浅は懐かしそうに笑うと、笑いすぎた自分に気がついたらしく周囲を見回した。

遼介はそんな湯浅を見てくすりと笑った。

「話が長くなった。要するになにが言いたいかというと、私にできることは、とても限られているということだ。兵藤にも、そう話した。君たちには先輩もいないわけだが、自主的に部活動に取り組んでほしい。キャプテンの君が中心となって部員と話し合い、練習に取り組んでいってくれ。」⑤ 三年生たちもそうやってきた。もちろん、私にできることはやろうと思うがね」

遼介は湯浅の話を聞きながら机の本棚に目を留めていた。本棚の左端にサッカー関連の書籍が並んでいた。ルールブックのほかトレーニング関連の本もあった。

「どうだ？」

「わかりました監督」

「先生でいい。みんなにも、そう呼ぶように言ってくれ。それで、私はなにをすればよいと思う？」

少し考えたあとで「練習試合を組んでください、できるだけ多く」と遼介はそう答えた。

⑥ 湯浅は驚いたような顔をしたあと、静かに笑いだした。「わかったよ。そうだよな、前のキャプテンにもそう言われたよ」

遼介もつられるように口元を緩めた。

「武井」

話が終わりを、職員室の出口に向かおうとしたとき呼び止められた。

「なにかあったら、相談してくれ」

「はい」

遼介は小さな声で返事をした。

職員室を出て、校長室の前まで来て遼介は立ち止まった。校長室の前には古い飾り戸棚がある。そこには、歴代の優秀な成績を残した桜ヶ丘中学校の部活のカップや盾が飾られている。それらはどれも年代は古いものばかりで、くすんだ色をしていた。それはどの部活も最近の成績が振るわない現実を映していた。

埃をかぶったサッカーボールを頂いた市大会準優勝トロフィーは、もう十年以上も前の代物だった。

* 星川の言葉を思い出していた。

——弱いチームのぬるま湯に浸かっていたら、駄目になっちゃうんじゃないのか？

今、自分は一年生だけのチームのキャプテンになった。手本となる先輩はいない。ライバルと呼べる選手もいない。サッカーやその指導経験らない顧問の下で、サッカーを続けている。星川と同じ夢を持ちながら、自分は、今でも⑦そういう場所に留まっている。このまま自分は、埋もれてしまうのだろうか……。

キャプテンに選ばれたのを喜んでなどいられなかった。チームをまとめていくのは、骨が折れることだろう。一年生だけのチームで戦い、成長を遂げるのは可能なのか……。

遼介は飾り戸棚のガラスに映る ⑧ 少年の顔を見つめた。

(はらだみずき『サッカーボーイズ13歳』による)

* フィジカルⅡ肉体的な動作・作用に関すること。

* 再びキャプテンマークをⅡ武井遼介は小学生時代もキャプテンだった。

* 星川Ⅱ小学生時代には武井遼介のチームメイトだったが、今は、武井と同じ中学に通いながらサッカー部に入らず、Jリーグのジュニアチームに入っている。

問一 この文章を大きく三つの場面に分けた場合、第二・第三の場面はそれぞれどこからですか。はじめの五字をぬき出して書きなさい。

問二 ——線部①「一年生だけで大変だと思う」とありますが、具体的にどんな点で大変だというのですか。「く点」に続く適切な表現を本文中から十一字でぬき出して書きなさい。

問三 ——線部②「顧問の湯浅」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「湯浅」の人物像として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア サッカーは好きだが指導者としての経験がないことを素直に認め、部員の自主性を尊重しようとする人物。

イ サッカーの経験はないが、興味はあるということを明言し、積極的に部活動に取り組もうとしている人物。

ウ サッカーに関しては興味がないと話しているが、努力を惜しまずに部活動を支えていこうとしている人物。

エ サッカーにはまったく興味もないと嘘をついて、自分の実力を隠したうえで熱烈な指導を考えている人物。

(2) 「遼介」は「湯浅」に対してどのような感情を持っていますか。適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 無責任な「湯浅」の態度に対していらだちを感じている。

イ 投げやりな「湯浅」の態度に対してあきらめを感じている。

ウ 積極的な「湯浅」の態度に対してあこがれを感じている。

エ 率直に話をする「湯浅」の態度に対して好意を感じている。

問四 ——線部③「正直言って困ったよ」とありますが、どんなことが困ったと言っているのですか。本文中の言葉を使って二十五字以内で書きなさい。

問五 ④にあてはまる適切な言葉を本文中から七字でぬき出して書きなさい。

問六 — 線部⑤「三年生たちもそうやってきた」とありますが、どのようにやってきたのですか。本文中の言葉を使って、五字以内で書きなさい。

問七 — 線部⑥「湯浅は驚いたような顔をしたあと、静かに笑いだした」とありますが、このときの「湯浅」の態度の説明として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「湯浅」が信頼しんらいを寄せていた「兵藤」と同じことを、新キャプテンの「遼介」も考えていることを知り、そのことに対して驚くとともに、これなら立派なキャプテンになるだろうと安心している。

イ 今までのキャプテンとはちがって、最初から練習試合を求めてくる「遼介」の積極的な態度に驚き、これならばしっかりとチームを引っ張っていくキャプテンになるだろうと信頼を寄せている。

ウ 前のキャプテンの「兵藤」と同じように、「湯浅」に対して信頼を寄せてくれる「遼介」の態度をうれしく思い、これならまた一年間サッカー部の顧問としてやっていけると自信を深めている。

エ 前のキャプテンの「兵藤」の教えをしつかりと守り、積極的に試合をしたがる「遼介」の考え方に驚き、やはり「兵藤」は立派なキャプテンだったなと懐かしく思い返している。

問八 — 線部⑦「そういう場所」が、たとえを用いて表現されている部分を本文中から五字以内でぬき出して書きなさい。

問九 ⑧にあてはまる適切な言葉を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不満そうな イ 不服そうな

ウ 不快そうな エ 不安そうな